



2018 年度 中間連結決算 台風の影響を受けて、前年同期比 増収減益

関西エアポート株式会社は、2018 年 4 月から 2018 年 9 月までの第 4 期会計年度中間決算において、営業収益は 1,049 億円、営業利益は 266 億円、経常利益は 209 億円、当期純利益*は 114 億円を計上しました。

今中間期は台風 21 号被災による関西国際空港の閉鎖がありました。8 月まで航空需要が堅調に推移したことや本年 4 月より神戸空港の運営を開始したこともあり、前年同期と比較すると、6%の増収となりました。一方、営業利益については本年 4 月からの神戸空港の運営権に係る償却費や主に大阪国際空港リノベーション等をはじめとした最近のインフラ投資の増加に伴う減価償却費の増加によって 2%の減益、当期純利益においては台風被害にかかる特別損失を計上した結果、23%の減益となりました。

なお、台風による今中間期の減収・損失額は 99 億円（台風による損失額全てを含むものではありません）となりました。

（連結損益計算書）

【単位：億円】	2017.4-2017.9	2018.4-2018.9	増減	%
営業収益	993	1,049	57	+6%
外部費用	(529)	(586)	(57)	+11%
EBITDA	464	464	(0)	-0%
減価償却費	(192)	(197)	(6)	+3%
営業利益	272	266	(6)	-2%
経常利益	215	209	(6)	-3%
当期純利益*	148	114	(33)	-23%

* 「当期純利益」は、「当社株主に帰属する当期純利益」を記載しています。

（航空需要の状況）

関西国際空港では、台風 21 号被災による閉鎖期間があったものの、主に韓国、ハワイや東南アジア方面の国際線旅客便の増加により、2018 年度上半期（4～9 月）の航空機発着回数は、年度上半期として過去最高の前年度に次ぐ結果となりました。大阪国際空港におきましても、主に機材点検のための欠航等により前年をわずかに下回りましたが、今年度より運営を開始した神戸空港は好調に推移し、3 空港の総発着回数は 17.4 万回となりました。

航空旅客数は、関西国際空港では、国際線旅客数が年度上半期として過去最高を記録したものの、台風 21 号被災により総旅客数としては前年を下回る結果となりました。大阪国際空港におきましては、機材大型化の影響を受け、また神戸空港におきましては、前年 7 月の仙台線の新規就航が寄与した結果、両空港で過去最高を記録しました。結果、関西国際空港・大阪国際空港・神戸空港を合わせた 3 空港の総旅客数は 2,372 万人となりました。

	2017.4-2017.9	2018.4-2018.9	増減	増減率
航空機発着回数（万回）	17.7	17.4	(0.3)	-2%
関西国際空港	9.3	9.0	(0.4)	-4%
大阪国際空港	7.0	6.9	(0.1)	-1%
神戸空港	1.4	1.5	0.1	+7%
航空旅客数（万人）	2,357	2,372	14	+1%
関西国際空港	1,413	1,391	(21)	-2%
大阪国際空港	787	819	32	+4%
神戸空港	158	161	4	+2%

（連結貸借対照表）

2018 年 9 月 30 日現在における財政状態は、前期末と比べると、未払金・未払法人税等が減少したことから、資産・負債ともに減少となり、資産合計は 1 兆 7,388 億円、負債合計は 1 兆 6,621 億円となりました。

【単位：億円】	2018.3.31 現在	2018.9.30 現在	増減
流動資産	1,663	1,420	(243)
固定資産	15,976	15,968	(8)
資産合計	17,639	17,388	(251)
流動負債	807	628	(179)
固定負債	15,985	15,993	9
負債合計	16,792	16,621	(171)
株主資本	836	750	(86)
その他の包括利益累計額	0	4	4
非支配株主持分	11	12	1
純資産合計	847	767	(80)
負債・純資産合計	17,639	17,388	(251)

* 「税効果会計に係る会計基準」の一部改正に伴い、2017 年度末の連結貸借対照表の組替を実施しています。

【本プレスリリースに関するお問い合わせ先】

関西エアポート株式会社
企画・管理部 広報・ブランディングチーム
Tel：072-455-2201



関西エアポート株式会社は、オリックス株式会社と VINCI Airports（ヴァンシ・エアポート）を中核とするコンソーシアムにより設立されました。関西国際空港（KIX）および大阪国際空港（ITAMI）の運営を新関西国際空港株式会社から引継ぎ、2016 年 4 月 1 日より両空港の運営会社として事業を開始しています。

また、2018 年 4 月 1 日からは関西エアポート株式会社の 100%出資会社である関西エアポート神戸株式会社が、神戸空港（KOBE）の運営を神戸市から引継ぎ、事業を開始しました。

“One 関西エアポートグループ”として、空港の安全とセキュリティを最優先に、適切な投資と効率的な運営によって国内外からの空港利用者へのサービスを強化してまいります。また、関西 3 空港の可能性を最大限に引き出し、地域コミュニティへの貢献につなげてまいります。

詳しくは、関西エアポートグループホームページ: www.kansai-airports.co.jp/ をご参照ください。

関西エアポート株式会社（関西国際空港および大阪国際空港の運営）

本社	大阪府泉佐野市泉州空港北 1 番地 大阪市西区西本町一丁目 4 番 1 号（登記上）	株主	オリックス 40%、 ヴァンシ・エアポート 40%、 その他の出資者 20% ¹
代表者	代表取締役社長 CEO 山谷 佳之 代表取締役副社長 Co-CEO エマヌエル・ムノント		
事業内容	関西国際空港および大阪国際空港の運営業務、管理受託業務等		

関西エアポート神戸株式会社（神戸空港の運営）

本社	兵庫県神戸市中央区神戸空港 1 番	株主	関西エアポート株式会社 100%
代表者	代表取締役社長 CEO 山谷 佳之 代表取締役副社長 Co-CEO エマヌエル・ムノント		
事業内容	神戸空港の運営、維持管理業務等		



オリックス株式会社について

オリックスは常に新しいビジネスを追求し、先進的な商品・サービスを提供する金融サービスグループです。

1964 年にリース事業からスタートして隣接分野に進出し、現在では融資、投資、生命保険、銀行、資産運用、自動車関連、不動産、環境エネルギー関連などへ事業を広げています。また、1971 年の香港進出を皮切りに世界 38 カ国・地域に拠点を設け、グローバルに展開しています。



世界有数の空港運営事業者であるヴァンシ・エアポートは、44 空港の開発・運営を行っています。同社の空港ネットワークを構成するフランス、ポルトガル（リスボンのハブ空港含む）、イギリス、スウェーデン、カンボジア、日本、アメリカ合衆国、ドミニカ共和国、コスタリカ、チリ、そしてブラジルの空港には、合計で 250 社を超える航空会社が就航し、2017 年の旅客者数は 1 億 8,000 万人にのぼります。

ヴァンシ・エアポートは総合インテグレーターとして、1 万 2,000 人のスタッフの専門知識と経験を駆使し、空港の開発・資金調達・建設・運営に当たっています。またその投資力、国際ネットワーク、ノウハウを生かして既存空港の運営と機能を最適化し、施設拡充や新規建設を行っています。

2017 年の連結売上高は 14 億ユーロ、グループ全体の売上高は 32 億ユーロ（関連会社含む）に達しました。

詳細は www.vinci-airports.com をご覧ください。

¹ 株式会社アシックス、岩谷産業株式会社、大阪瓦斯株式会社、株式会社大林組、オムロン株式会社、関西電力株式会社、近鉄グループホールディングス株式会社、京阪ホールディングス株式会社、サントリーホールディングス株式会社、株式会社 JTB、積水ハウス株式会社、ダイキン工業株式会社、大和ハウス工業株式会社、株式会社竹中工務店、南海電気鉄道株式会社、西日本電信電話株式会社、パナソニック株式会社、阪急阪神ホールディングス株式会社、レンゴー株式会社、株式会社池田泉州銀行、株式会社紀陽銀行、株式会社京都銀行、株式会社滋賀銀行、株式会社南都銀行、日本生命保険相互会社、株式会社みずほ銀行、三井住友信託銀行株式会社、株式会社三菱 UFJ 銀行、株式会社りそな銀行、株式会社民間資金等活用事業推進機構

連 結 損 益 計 算 書

〔 自 平成 30 年 4 月 1 日
至 平成 30 年 9 月 30 日 〕

（単位：百万円）

営 業 収 益		104,919
営 業 原 価		67,110
営 業 総 利 益		37,809
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費		11,194
営 業 利 益		26,614
営 業 外 収 益		559
受 取 利 息 及 び 配 当 金	367	
持 分 法 に よ る 投 資 利 益	35	
そ の 他 の 営 業 外 収 益	156	
営 業 外 費 用		6,278
支 払 利 息	6,217	
支 払 手 数 料	50	
そ の 他 の 営 業 外 費 用	10	
経 常 利 益		20,895
特 別 利 益		0
固 定 資 産 売 却 益	0	
寄 付 金 受 入 額	0	
特 別 損 失		4,268
固 定 資 産 除 却 損	109	
更 新 投 資 に 伴 う 撤 去 費 用	617	
災 害 に よ る 損 失	819	
災 害 損 失 引 当 金 繰 入 額	2,722	
減 損 損 失	0	
税 金 等 調 整 前 中 間 純 利 益		16,627
法 人 税 、 住 民 税 及 び 事 業 税	6,748	
法 人 税 等 調 整 額	△ 1,705	
中 間 純 利 益		11,584
非 支 配 株 主 に 帰 属 す る 中 間 純 利 益		142
親 会 社 株 主 に 帰 属 す る 中 間 純 利 益		11,442

（記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。）

連結貸借対照表

[平成30年9月30日現在]

(単位: 百万円)

資 産 の 部		負 債 の 部	
流 動 資 産	142,040	流 動 負 債	62,782
現 金 及 び 預 金	102,417	買 掛 金	2,571
売 掛 金	7,011	未 払 金	8,238
商 品	5,530	未 払 費 用	4,930
原 材 料 及 び 貯 蔵 品	1,145	1年内返済予定の長期借入金	3,170
1 年 内 回 収 予 定 の 差 入 保 証 金	13,236	1年内支払予定の公共施設等運営権に係る負債	29,532
未 収 金	7,666	未 払 法 人 税 等	5,660
そ の 他	5,031	賞 与 引 当 金	1,067
貸 倒 引 当 金	△ 0	ポ イ ン ト 引 当 金	85
		災 害 損 失 引 当 金	2,722
		そ の 他	4,802
固 定 資 産	1,596,773	固 定 負 債	1,599,322
有 形 固 定 資 産	20,884	社 債	4,860
建 物 及 び 構 築 物	3,652	長 期 借 入 金	179,157
機 械 装 置 及 び 運 搬 具	7,688	公共施設等運営権に係る負債	1,356,929
土 地	604	繰 延 税 金 負 債	15
建 設 仮 勘 定	4,388	特 別 修 繕 引 当 金	46,861
そ の 他	4,550	退 職 給 付 に 係 る 負 債	4,101
無 形 固 定 資 産	1,452,332	そ の 他	7,395
公 共 施 設 等 運 営 権	1,435,200	負 債 合 計	1,662,104
更 新 投 資 に 係 る 資 産	15,912	純 資 産 の 部	
そ の 他	1,219	株 主 資 本	75,024
投 資 そ の 他 の 資 産	123,556	資 本 金	25,000
投 資 有 価 証 券	1,574	資 本 剰 余 金	25,000
退 職 給 付 に 係 る 資 産	228	利 益 剰 余 金	25,024
差 入 保 証 金	115,053	その他の包括利益累計額	438
繰 延 税 金 資 産	6,056	そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金	94
そ の 他	652	繰 延 ヘ ッ ジ 損 益	343
貸 倒 引 当 金	△ 8	非 支 配 株 主 持 分	1,247
		純 資 産 合 計	76,710
資 産 合 計	1,738,814	負 債 ・ 純 資 産 合 計	1,738,814

(記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。)

2018年度 中間連結決算

2018.12.10



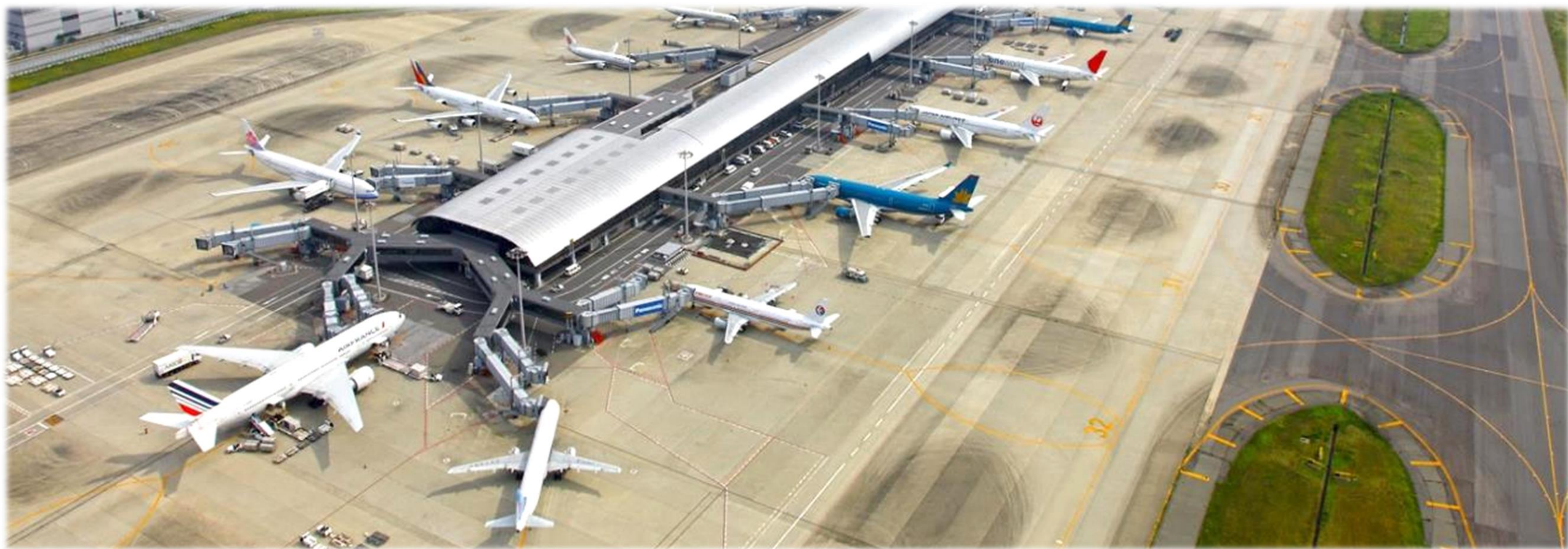
Shaping a New Journey



アジェンダ

- 2018年度 中間連結決算の概要
- 営業収益分析
- 台風21号以降の回復状況





2018年度 中間連結決算の概要

台風による影響を受けて、前年同期比 増収減益

【単位：億円】

1. 8月までの好調な航空需要

⇒KIX国際線を中心に航空旅客数増
⇒旅客数の伸び率を上回る非航空系収入

2. 台風による影響

⇒関西国際空港における9月の旅客数、
営業収益がほぼ半減
8月までの好調により上半期としては増収

	2017.4-2017.9	2018.4-2018.9	増減	%
営業収益	993	1,049	57	+6%
EBITDA	464	464	(0)	-0%
営業利益	272	266	(6)	-2%
経常利益	215	209	(6)	-3%
当期純利益*	148	114	(33)	-23%

*「当期純利益」は、「当社株主に帰属する当期純利益」を記載

台風の影響

→ 2018年度中間連結決算における、台風による減収・損失額 99億円（※）

	金額（億円）
営業収益	△82
航空系	△36
非航空系	△46
売上原価	+19
災害による損失	△8
災害損失引当金繰入額	△27
合計	△99

（例）

- ・建築修繕（貨物上屋の屋根・庇など）
- ・臨時シャトルバス運行費
- ・防災、機械関連設備復旧
- ・電源応急復旧、発電機レンタル・設置・撤去 など

※台風による損失額全てを含むものではありません。

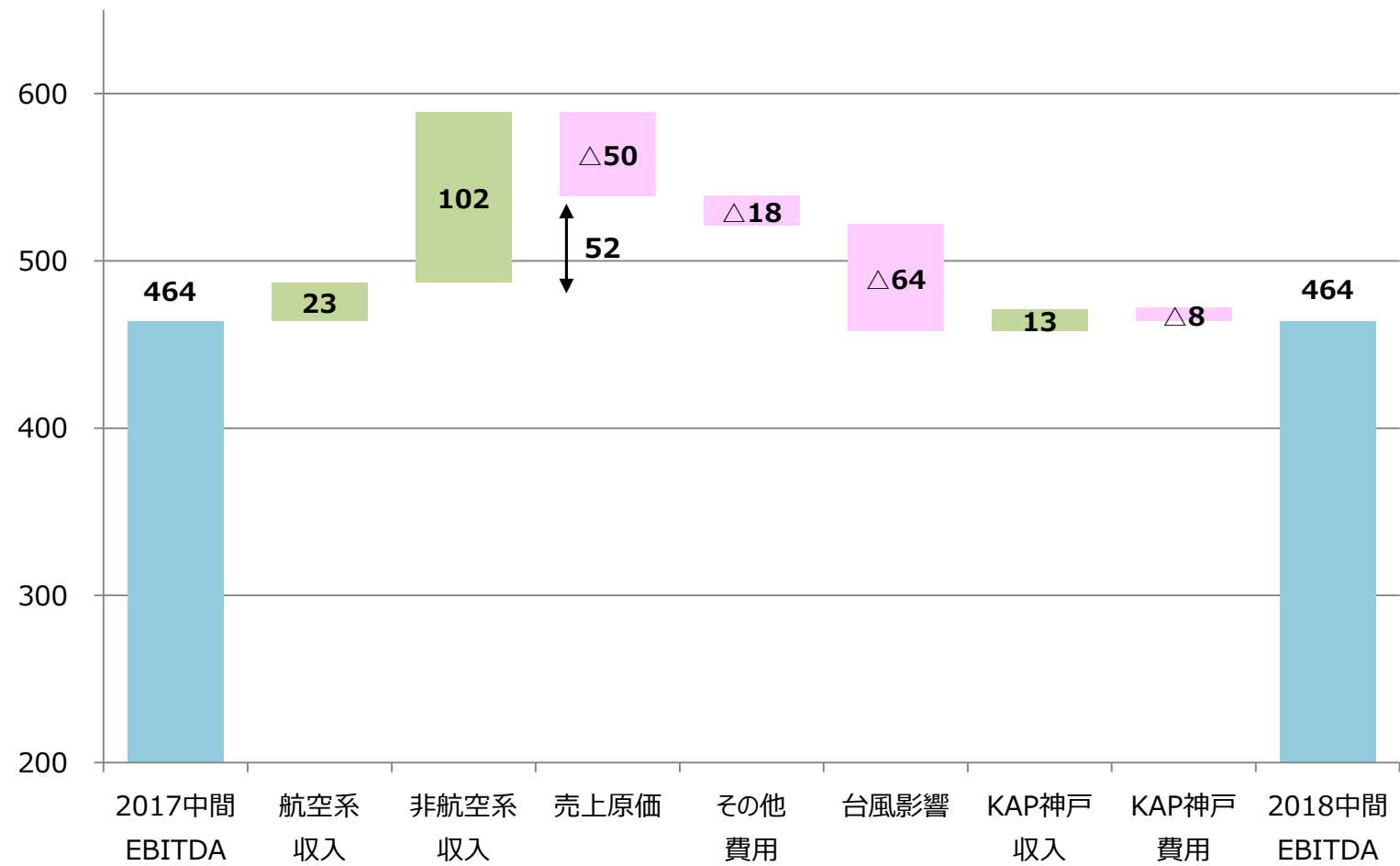
経営成績 - 8月までの非航空営業収入の好調により増収 -

【単位：億円】

	2017.4-2017.9	2018.4-2018.9	差額	%	備考
営業収益	993	1,049	57	+6%	台風の影響△82億円
航空系	434	428	(6)	-1%	台風の影響△36億円
非航空系	559	621	62	+11%	台風の影響△46億円
営業費用（減価償却費除く）	(529)	(586)	(57)	+11%	台風の影響+19億円
EBITDA	464	464	(0)	-0%	
減価償却費	(192)	(197)	(6)	+3%	
営業利益	272	266	(6)	-2%	
営業外損益	(57)	(57)	0	-0%	
経常利益	215	209	(6)	-3%	
特別損益	2	(43)	(44)	-	台風の影響△35億円
法人税等、非支配株主帰属損益	(69)	(52)	17	-24%	
当期純利益*	148	114	(33)	-23%	

EBITDA分析 - 前期と同額の464億円を確保 -

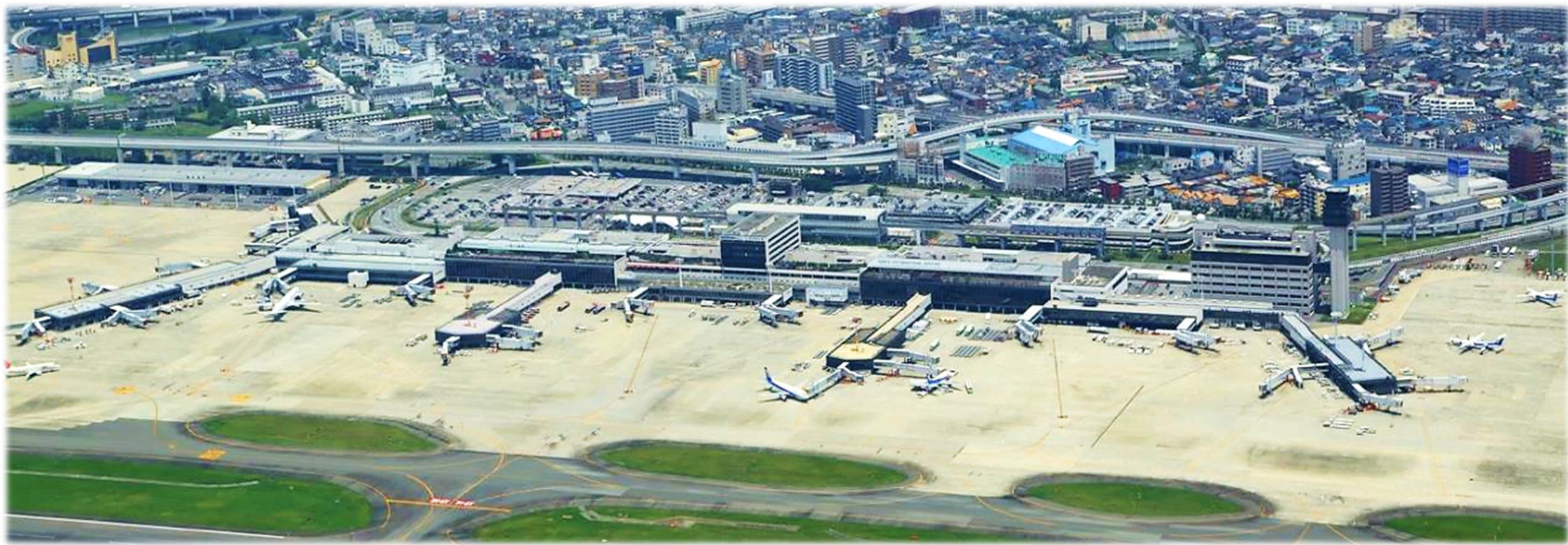
【単位：億円】



バランスシート

【単位：億円】

		2017年度末 (2018.3.31現在)	2018年度中間 (2018.9.30現在)	増減
公共施設等 運営権	流動資産	1,663	1,420	(243)
	固定資産	15,976	15,968	(8)
	資産合計	17,639	17,388	(251)
公共施設等 運営権に係る負債	流動負債	807	628	(179)
	固定負債	15,985	15,993	9
	負債合計	16,792	16,621	(171)
	株主資本	836	750	(86)
	その他の包括利益累計額	0	4	4
	非支配株主持分	11	12	1
	純資産合計	847	767	(80)
	負債・純資産合計	17,639	17,388	(251)



營業收益分析

【航空系】3空港合計の旅客数が、年度上期として過去最高

→ 台風・地震の影響があったものの、3空港合計の旅客数は前年を超え、年度上期として過去最高。総発着回数は前年比2%減

→ 国際線外国人旅客数が年度上期として過去最高

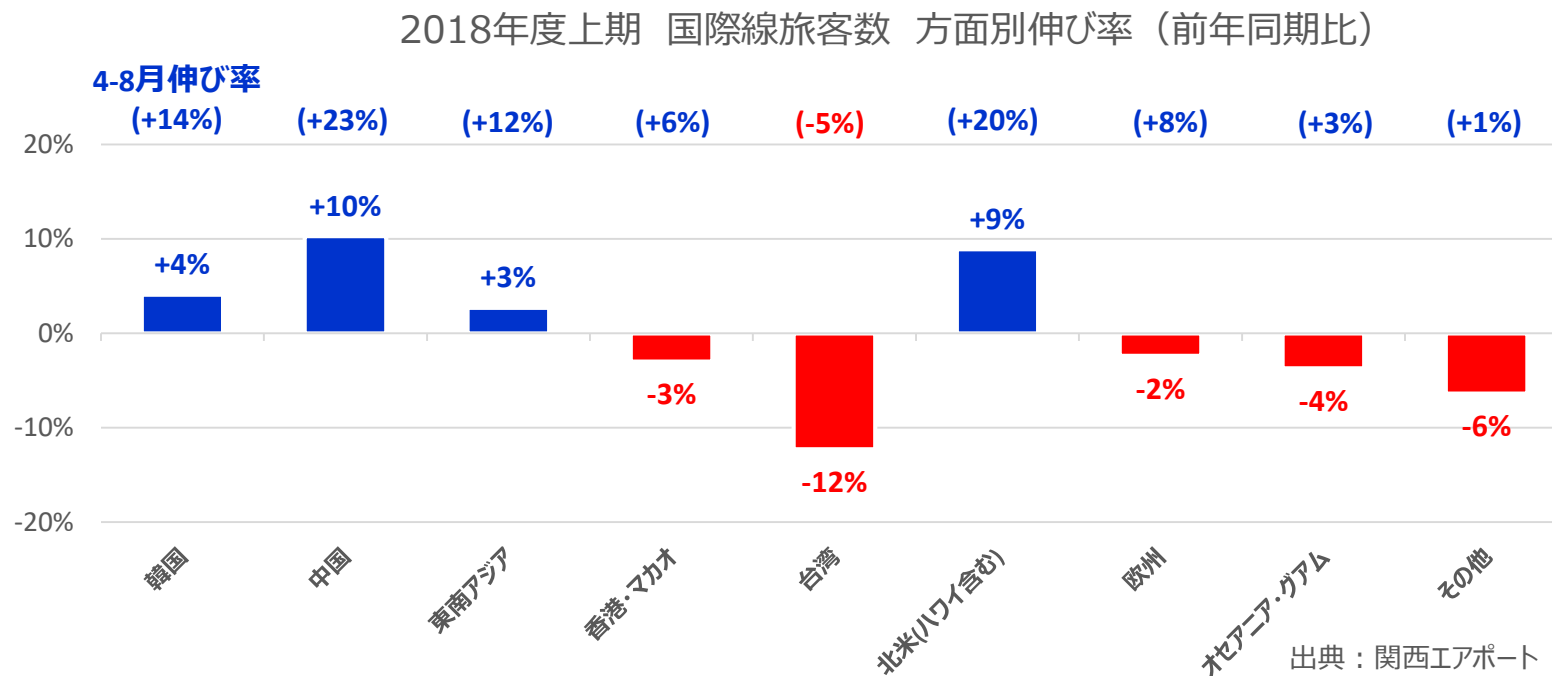
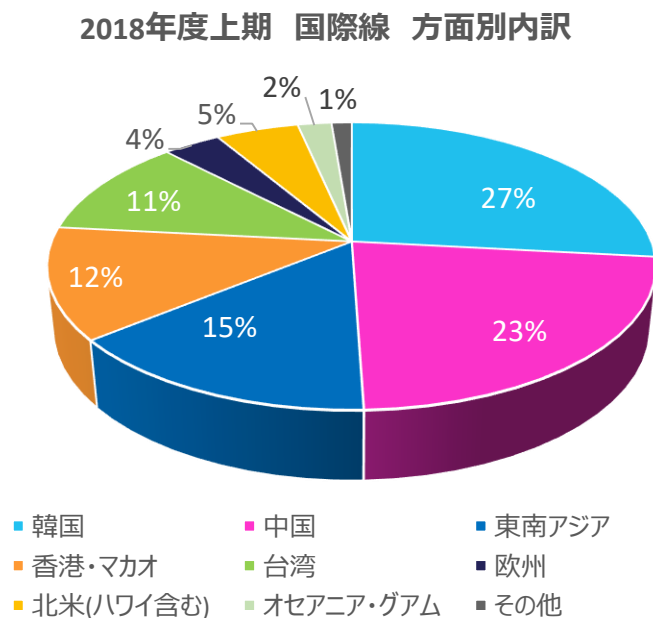
→ 大阪国際空港：旅客数が前年比4%増

→ 神戸空港：旅客数が年度上期として過去最高

	2017年度 上期	2018年度 上期	増減	%
発着回数（万回）	17.7	17.4	(0.3)	-2%
関西国際空港	9.3	9.0	(0.4)	-4%
大阪国際空港	7.0	6.9	(0.1)	-1%
神戸空港	1.4	1.5	0.1	+7%
航空旅客数（万人）	2,357	2,372	14	+1%
関西国際空港	1,413	1,391	(21)	-2%
国際線	1,060	1,076	16	+1%
日本人旅客	324	325	1	+0%
外国人旅客	726	741	15	+2%
大阪国際空港	787	819	32	+4%
神戸空港	158	161	4	+2%

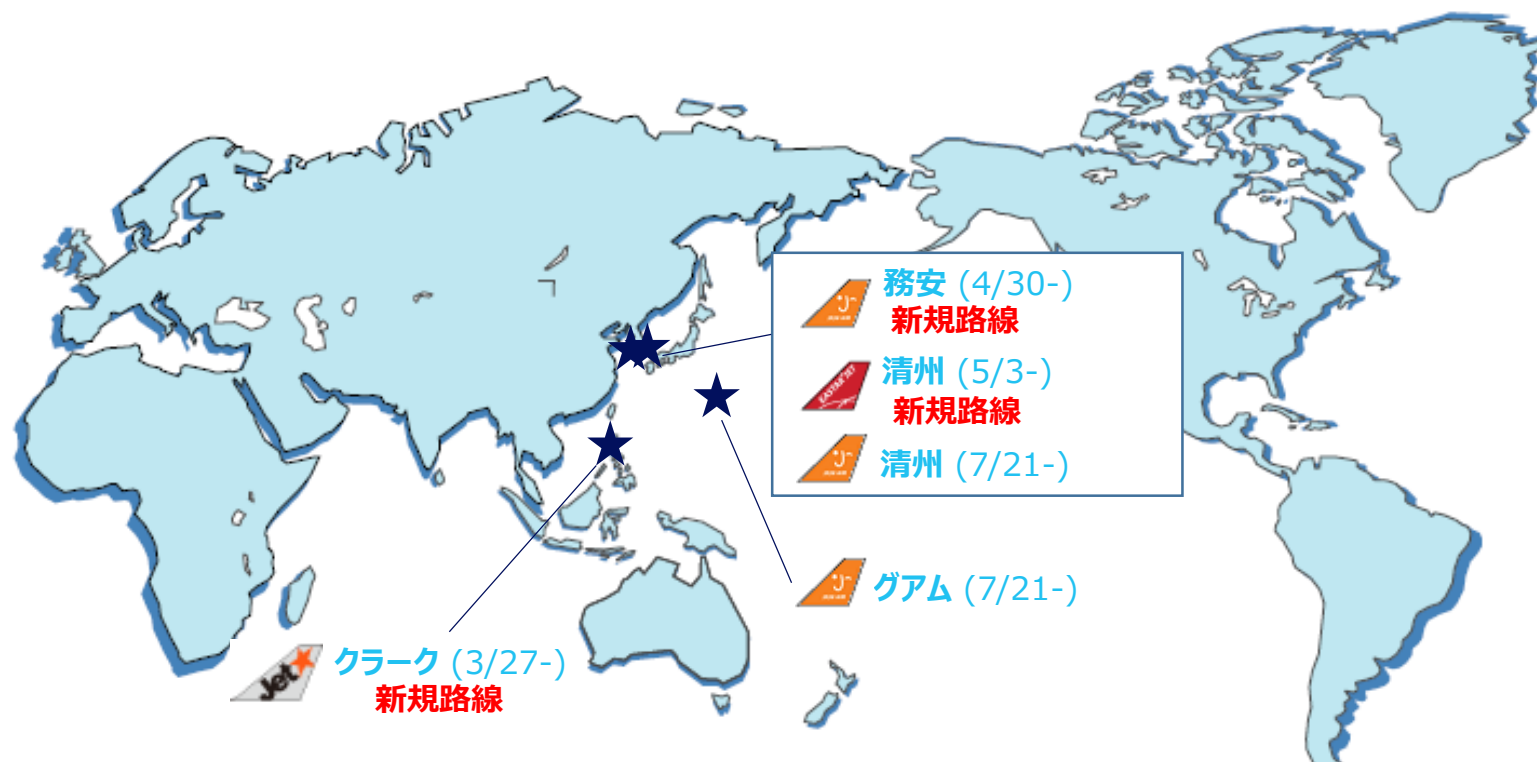
【航空系】KIX国際線旅客数、8月まで好調に推移

- ✈ 8月までは台湾を除く全方面で前年を上回る伸び率で推移。
- ✈ 中国方面は上期合計でも前年を10%上回り、成長を牽引。韓国、香港は6月に発生した大阪北部地震の影響を受け、伸び率が鈍化。

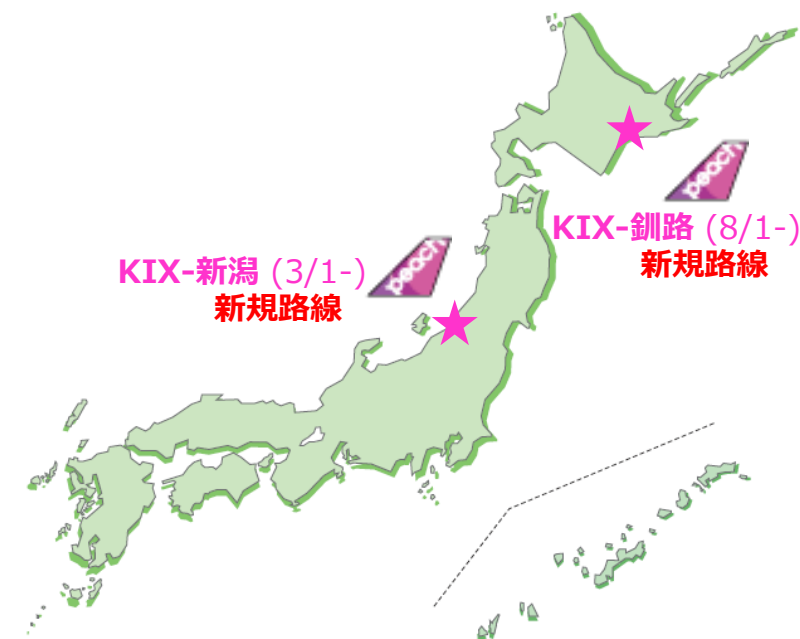


【航空系】KIX国際線 2018年度上期 新規就航路線（旅客便）

国際線



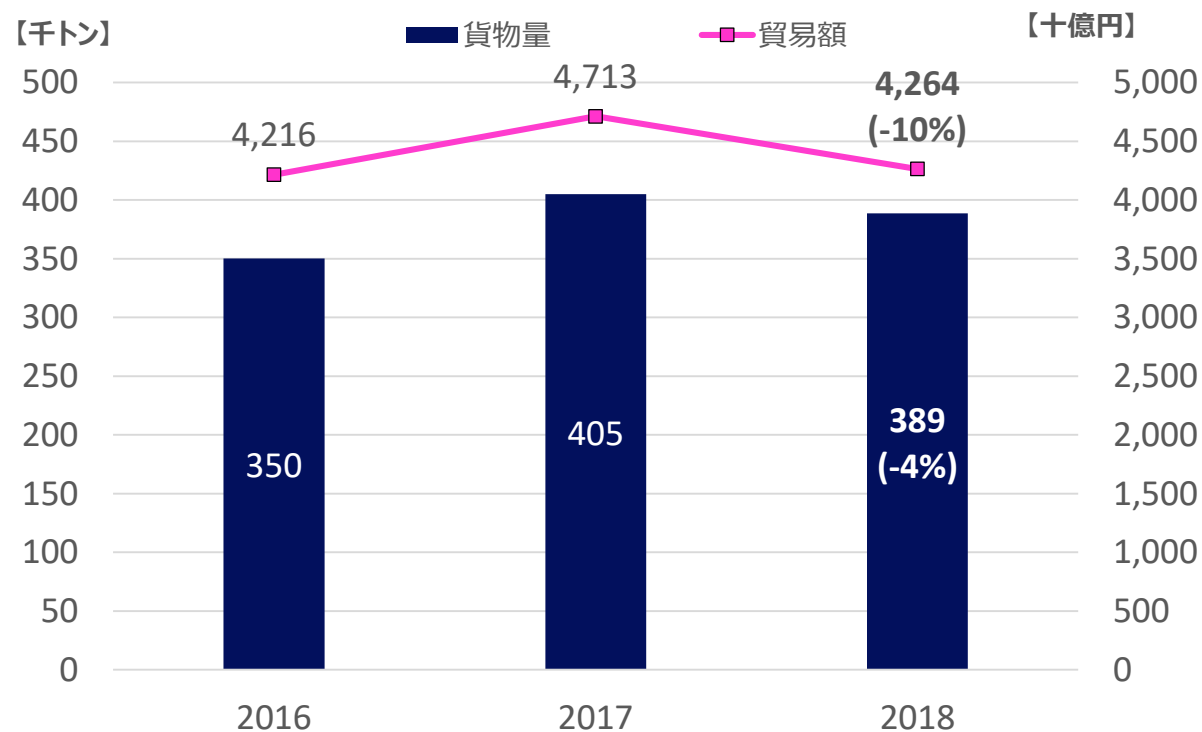
国内線



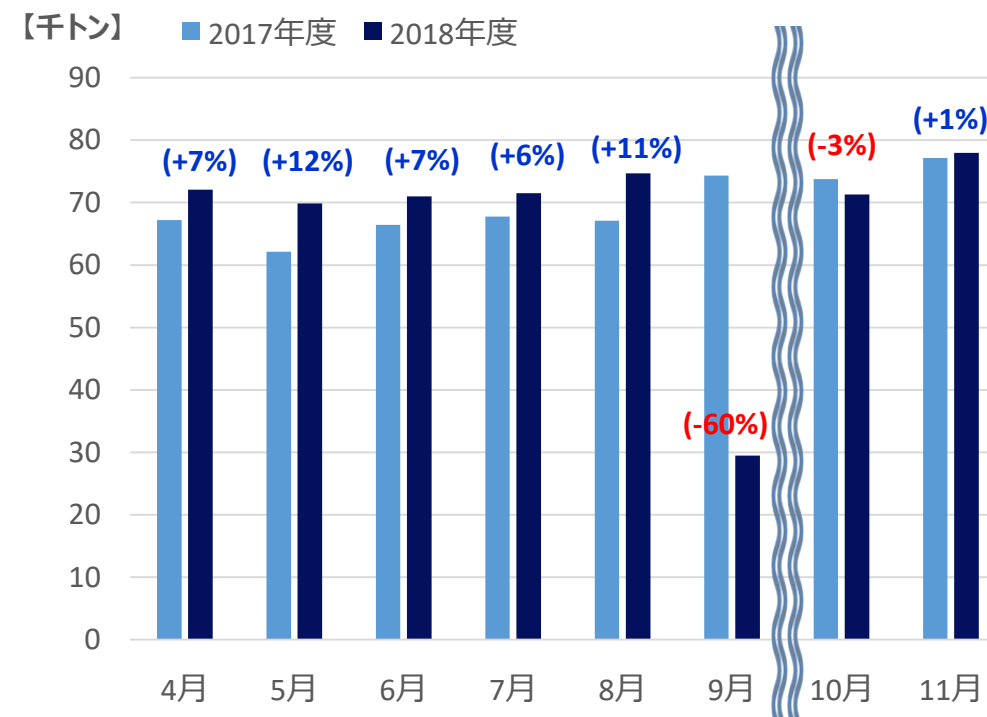
【航空系】 KIX国際貨物、8月まで25カ月連続で前年越え

KIXの上期国際貨物取扱量は39万トン、前年-4%の減となるも、2018年8月までは25カ月連続で前年超え。

2016-2018年度上期 国際貨物取扱量実績



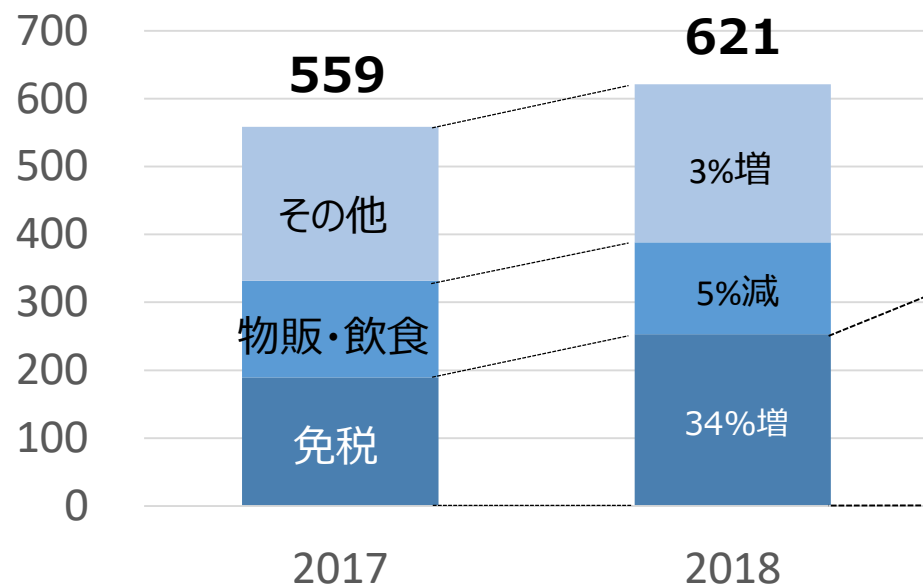
国際貨物取扱量 月別推移



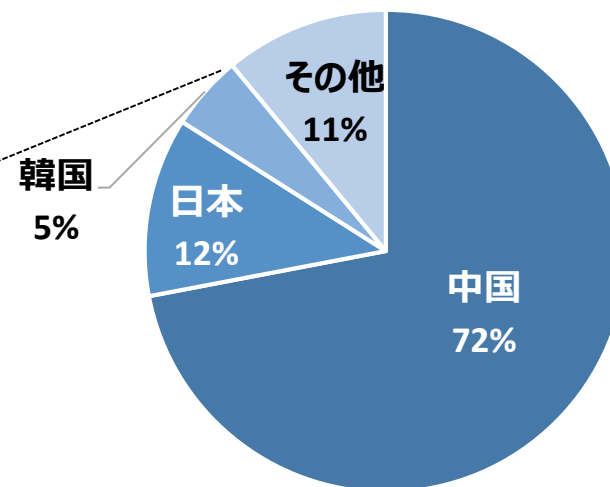
【非航空系】非航空系収入が過去最高。免税事業収入がけん引。

- ➔ 非航空系収入は、前年比11%増加し過去最高の621億円を記録（航空旅客数の前年伸び率（1%増）を上回る）
- ➔ 前年比34%増加した免税事業収入が商業事業の力強い成長をけん引
- ➔ 大阪国際空港リニューアルで4月に先行オープンした中央エリアの売り上げは2倍超と好調に推移

【単位：億円】 2018年度上期 非航空系収入の伸び率（%）

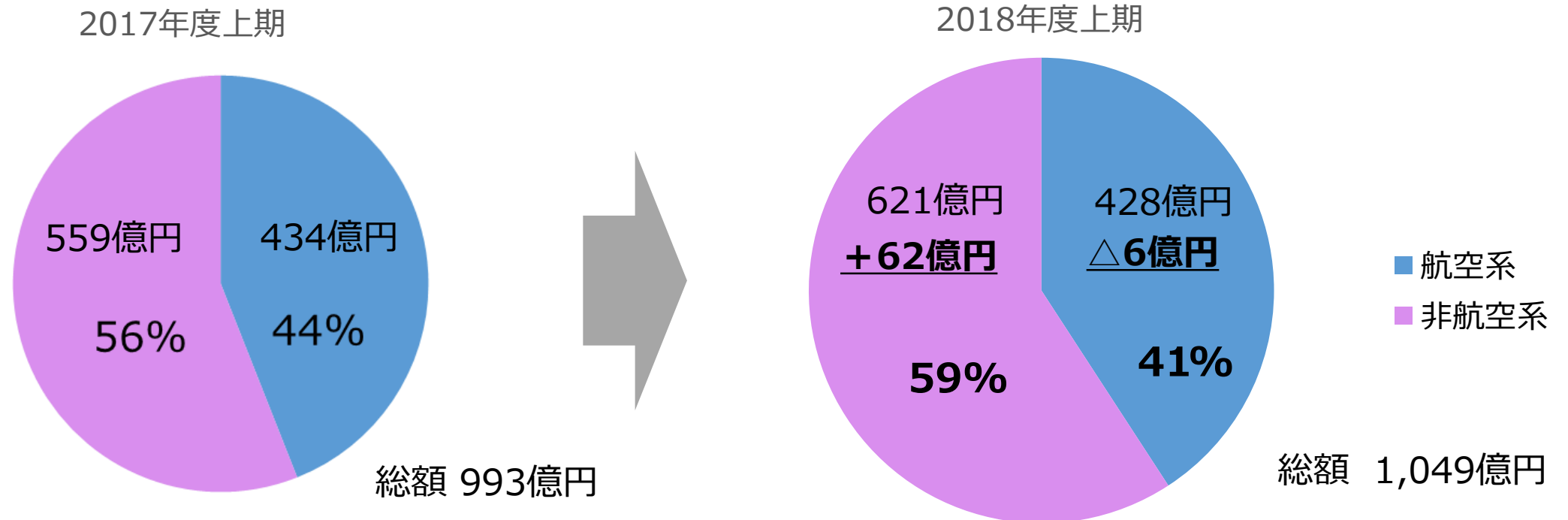


2018年度上期 国籍別免税店売上の割合（%）



非航空系収入の割合が増加

- 非航空系収入の割合：対前年3%増の59%
- 航空系収入：神戸空港運営開始による増収があったものの、台風の被災により6億円の減収
- 非航空系収入：免税事業収入を中心に62億円の増収



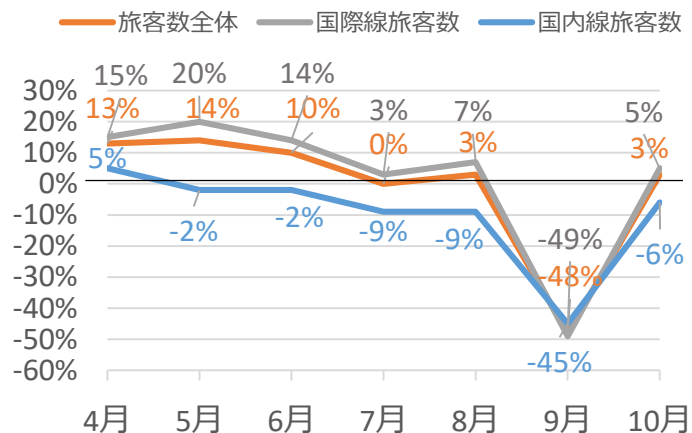


台風21号以降の回復状況

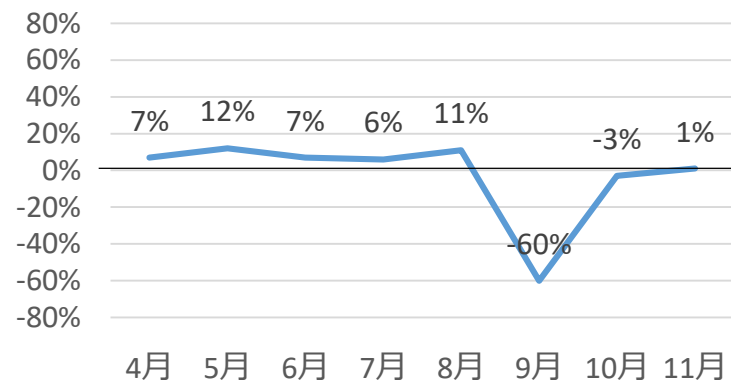
KIXの旅客数、貨物量ともにほぼ回復

- ➔ 旅客数：10月以降は前年比+3%まで回復
- ➔ 国際貨物：10月の国際貨物取扱量は前年比-3%、11月は+1%と大幅回復。
既に全ての国際貨物便が復便。
- ➔ 便数：2018年KIX国際線冬スケジュールは、夏冬通じて過去最高便数を計画

KIX 旅客数 推移（前年比）



KIX 国際貨物取扱量 推移（前年比）



KIX 冬期スケジュール国際定期便数

